

# 老健 ほっかいどう

一般社団法人北海道老人保健施設協議会

VOL.

10

2021年6月

特集 03

栄養ケアを充実し、  
利用者の  
食を支えよう！  
北湯沢温泉いやしの郷／オアシス21



- 02 巻頭言  
幹事 本村勝昭
- 06 ろうけん拝見  
小樽市「はまなす」「マイトリー小樽」
- 08 支援相談員のリレーコラム Vol.1

INFORMATION

第28回  
北海道老人保健施設大会 開催！

# 巻頭言

## もう少しの辛抱です

一般社団法人北海道老人保健施設協議会 幹事  
社会福祉法人旭川福祉事業会 老人保健施設ひだまりの里  
施設長 **本村 勝昭**



### 雪解け

どんよりとした空模様に覆われていた大雪山連邦が、春の訪れとともにくっきりした青空に浮かび上がり、まだまだ解けやらぬ純白のドレスに身をまとうて神々しく輝く姿は、毎日の散歩の度に心身のよどみを浄化してくれます。数日前まで散布された融雪剤が蛇行した黒い縞模様で田畑に奇妙なオブジェを作り、いち早く解けた水田には数十羽の白鳥がもうすぐ数千キロ彼方のシベリアに旅立つ前の体力づくりだろうか、クワークワーと甲高い声を出しながら餌をついばむ姿もつかの間でした。

### COVID-19

桜も散った5月の初め、待望のワクチンが届きました。入所者は3回に分けて、3日間で1回目の接種が終了しました。心配な副作用に備えて用意された酸素吸入器、アンビュー、点滴セット、昇圧剤、ステロイド注射剤、AEDの出番はありませんでした。この時点で、日本人のワクチン接種率は約3%に対し、欧米先進国はすでに50~60%に達しており、我が国は韓国と肩を並べて18、19番目と残念ながら先進国の後塵を拝しています。20世紀に入って以降、インフルエンザ・パンデミックは3回記録されており、1918年1回目のスペイン風邪で日本では

2300万人の患者と約38万人の死亡者が出たとされています(当時の人口7700万人)。もちろん当時は抗生剤、ワクチンのない時代であり、死亡者も多く終息には3年間かかっています。それから100年が過ぎ、文明、科学、医療、公衆衛生も飛躍的に進歩しているにもかかわらず、新型コロナに対してはワクチン以外に特效薬はなく、100年前と同じように手洗い消毒、うがい、マスクの着用と3密回避で感染予防を余儀なくされています。

新型コロナは変異を起こしやすいRNAウイルスで、変異を繰り返すごとに感染力を強め重症化しやすく、若い人にも感染しやすいとされる厄介なウイルスです。ウイルスは生きた細胞の中でしか増殖できないため、感染した患者を全て殺してしまうと自分も生き残れないから、時には感染しても全く症状を出さず、あるいは重篤な症状にすることもなく生き残ってパンデミックを引き起こしているのでしょうか。なんともしたたかな姿の見えない人類の敵です。

兎にも角にも遅きに失したとは言え、一日も早くワクチン接種が完了して日常生活を取り戻したいものです。老健職員の皆さん、今日も玄関のガラス越しに面会しているおじいさんおばあさん、もう少しの辛抱です。

## 事務局通信

皆様からのご意見・ご要望お待ちしております！

『老健ほっかいどう』は今回でVol.10となります。今回から表紙のデザインもリニューアルしました。気付きましたか？介護報酬改定やコロナ対策、ワクチン接種等、慌ただしい日々を皆さんも送られていることと思います。ストレスケアは大丈夫ですか？私はソロキャンプで焚き火と自然に癒されることで、ストレスケアに繋がっています。あとはファイターズの最下位脱出を願うばかりです！

(介護老人保健施設グランドサン亀田/事務長 古川和也)

コロナ禍で昨年バス、地下鉄、JRに一度も乗車していないことに気付きました。慣れというのは怖いものでそんな中でもそれなりに生活できていますね。この1年、自分にとって生活に欠かせないものは？と整理しているように思います。近い将来、皆で談笑したり飲み会できる日までじっと充電したいと思います。それまでの辛抱です。皆様！もう少し頑張りましょう！！

(介護老人保健施設セージュ山の手/事務長 岡田和博)

## 特集

# 栄養ケアを充実し、利用者の食を支えよう！

老健施設の運営に栄養の取り組みは欠かせない

[北海道栄養士会]



会長 中川 幸恵さん  
副会長 吉田 めぐみさん

### チームで栄養ケアに取り組もう

2021年度介護報酬改定で大きかったのは、やはり栄養マネジメント強化加算が新設されたことです。通所系サービスにおいても栄養アセスメント加算の新設、栄養改善加算も充実が図られ、改めて管理栄養士配置の重要性が打ち出されました。

振り返れば、介護報酬改定に栄養ケア・マネジメントが導入され、栄養管理体制加算および栄養マネジメント加算が創設されたのは2005年10月でした。翌年には診療報酬改定においても、入院料に栄養管理実施加算が新設され、栄養管理の重要性が高まりました。しかしその後、入院基本料に栄養管理実施加算が包括化されることとなった診療報酬に並ぶ

動きは介護報酬では見られず、栄養ケア・マネジメントの実施状況は、各施設によってかなり差が生じていたように思います。

今回はじめて、栄養ケア・マネジメントが基本サービスに包括化されるのと同時に未実施の施設は減算となり、老健施設の適切な運営に栄養ケアの取り組みは欠かせないものとなったわけです。科学的介護情報システム(LIFE)を用いたデータ提出も求められることで、これまで雑事等に追われていた管理栄養士の皆さんも、専門性を発揮する良い機会になるのではないのでしょうか。多職種にとっても栄養への意識が高まるきっかけとなり、チームが一体となって栄養ケアに取り組む機会になればと期待しています。

### 実践力を身につける勉強も大事

老健を含む介護保険施設の利用者は、2人に1人が低栄養リスクを抱えているというデータもあり、課題となっています。解決を図るためには、適切な栄養ケア・マネジメントの実践が必要となりますが、管理栄養士のなかには、実践経験が乏しく、不安を抱えている方もいるかもしれません。

北海道栄養士会では、そうした栄養ケア・マネジメントの実践力を身につける研修会も行っていく計画です。ぜひ一緒に学び、高齢者の食べる意欲を支えていきましょう。



### 2021年度介護報酬改定で明示された老健において求められる栄養の主な取り組み

#### 施設系サービスにおける栄養ケア・マネジメントの充実

単位数	現行	改定後
栄養マネジメント加算 14単位/日	→	廃止 栄養ケア・マネジメントの未実施 14単位/日減算(新設) (3年の経過措置期間を設ける)
なし	→	栄養マネジメント強化加算 11単位/日(新設)
低栄養リスク改善加算 300単位/月	→	廃止
経口維持加算 400単位/月	→	変更なし

#### 多職種連携における管理栄養士の関与の強化

概要  
介護保険施設において多職種連携で行う取組について、管理栄養士の役割や関与を強化する観点から、以下の見直しを行う。【告示改正、通知改正】

- 看取り期における栄養ケアの充実を図る観点から、介護保険施設における看取りへの対応に係る加算(看取り介護加算、ターミナルケア加算)又は基本報酬の算定要件において、関与する専門職として管理栄養士を明記する。
- 褥瘡の発生や改善は栄養と大きく関わることを踏まえ、褥瘡マネジメント加算、褥瘡対策指導管理の算定要件において、関与する専門職として管理栄養士を明記する。

#### 通所系サービス等における口腔機能向上の取組の充実

単位数	現行	改定後
栄養スクリーニング加算 5単位/回	→	口腔・栄養スクリーニング加算(Ⅰ) 20単位/回(新設)(※6月に1回を限度) 口腔・栄養スクリーニング加算(Ⅱ) 5単位/回(新設)(※6月に1回を限度)
口腔機能向上加算 150単位/回	→	口腔機能向上加算(Ⅰ) 150単位/回(現行の口腔機能向上加算と同様) 口腔機能向上加算(Ⅱ) 160単位/回(新設)(※原則3月以内、月2回を限度) (※(Ⅰ)と(Ⅱ)は併算不可)

#### 通所系サービス等における栄養ケア・マネジメントの充実

単位数	現行	改定後
なし	→	※通所系サービスに加え 看護小規模多機能型居宅介護も対象とする 栄養アセスメント加算 50単位/月(新設)
栄養改善加算 150単位/回	→	栄養改善加算 200単位/回 (※原則3月以内、月2回を限度)

出典：社保審一介護給付費分科会第199回(R3.1.18)参考資料より抜粋



### 参考 老健における栄養関連の取り組みの調査結果

#### 低栄養リスク者が1カ月間の入所者数に占める割合の平均

- ・高リスク者11.3%
- ・中リスク者39.0%

※入所者の約2人に1人が中高リスク者！  
(N=全国の老健181施設)

#### 低栄養の中高リスク者が少ない老健

- ・経口維持加算を算定している
- ・多職種によるミールラウンドを実施
- ・入退所前後に他の施設・事業所間と施設所属の管理栄養士が栄養情報連携をしている

#### 1カ月間の誤嚥性肺炎による入院者の数が少ない老健

- ・多職種によるミールラウンドに歯科医師が参加している
- ・経口維持加算の算定の有無にかかわらず管理栄養士によるミールラウンドを週5日以上実施
- ・兼任先の通所サービスで管理栄養士が食事を観察している

出典：「介護保険施設における効果的・効率的な栄養ケア・マネジメント及び医療施設との栄養連携の推進に関する調査研究事業」報告書(2020年3月)／一般社団法人日本健康・栄養システム学会より抜粋



# 【看取り期の栄養ケア】 看取り期の栄養ケアの ベストタイミングを見極める！

## 栄養check1!

### 最適な介入時期を見逃さない

北湯沢温泉いやしの郷では、管理栄養士の相馬梨紗さんと言語聴覚士の濱祐祐さんが中心となり、小まめな連携を通じて利用者の状態変化に配慮した栄養ケアに取り組んでいます。

特に力を入れているのが、看取り期の栄養ケア。看取り期に差しかかる利用者には、さまざまなサインが表れると、濱さんは説明します。「食事摂取量の低下はもちろん、噛んでいる時間や飲み込みに時間がかかる、姿勢が保

持できないなど、多職種でわずかな変化を見逃さないようにしています」

看取りカンファレンスが開始となれば、いかに本人や家族の要望に沿った“食べたいもの”を提供できるかが問われます。そのため、相馬さんは全利用者の栄養計画を作成する際に看取りも見越し、食事嗜好は念入りに調査しています。しかし、何より難しいのは経口摂取のタイミングの見極め。「経口摂取によって誤嚥性肺炎を引き起こして状態悪化を招くといった事態には注意を払いつつ、最適な食形態を考えます」と相馬さん。濱さんも、「利用者に適した評価を通じて、嚥下能力が最も良い“ベ

ストスロー（嚥下）”を見極めなくてはなりません。観察や多職種による話し合い、経験則も含めてトライしますが、その際、何かあったときのリスクマネジメントとして、事前のバイタルチェックや看護師の配置、痰吸引の用意など、準備は入念に行います」と説明します。



看取りカンファレンスは1週間に1度の開催

## 栄養check2!

### 看取り期も“食べる”ことをあきらめない

【事例】アルツハイマー型認知症と慢性心不全の既往歴があった90代の女性。全身状態悪化にともなう意識・覚醒レベルの低下、口腔内の状況悪化などで経口摂取は困難との判断から、看取り期に突入し、点滴による栄養補給を行っていました。家族から「好物のアイスを食べさせてあげたい」という要望があり、濱さんは間接的嚥下訓練とともに、多職種で口腔内の清潔を保持する取り組みを継続。徐々にバイタルの安定や挨拶レベルの反応が見られ、唾液反射惹起等可能になってい

ることからトロミ水での評価を実施。頸部聴診や呼吸状態の把握等を確認し、嚥下の最大能力を發揮した“ベストスロー”を引き出すことでアイスを食べられると判断しました。アイスに口にした女性は「うんめえ!」と喜び、む



利用者への食事介助を通じて嚥下評価をする濱さん。左から2番目が相馬さん

せ込むことなく食べることができました。これを機に状態が回復に向かい、家族による食事介助の協力も功を奏して、ペースト食の提供を再開。一時、看取りケアは解除となります。その後、女性は経口摂取を3週間継続し、老衰で永眠しました。

「老衰の看取りは、緩和ケアとは違い、回復するケースがあるため予後の見立ては難しいことが多いです。対象者の状態に注意を払いながら要望にいつでも対応できるよう好きなものを常備しておきます」と相馬さん。濱さんは、「ご家族に寄り添うことも大切。『一生懸命リハビリしていましたよ』など日々様子を伝えていきます」と話します。

## 栄養check3!

### ミールラウンドや講義で多職種理解を促進

同施設では、多職種の栄養への意識向上に、ミールラウンドのほか看護師や介護職の新入職員研修会では必ず摂食嚥下と口腔ケアの講義を実施。「互いを尊重しながらも、どの職種も栄養に関心をもってもらえるよう働

きかけています」(濱さん)。

今後については、「もっと早い段階で看取りに介入する体制を整えて、多くの利用者さんが食べたいものを食べられるよう支援をしたい。訪問栄養の経験を活かし、在宅高齢者の食支援にも挑戦したいですね」と相馬さん。濱さんは、「在宅復帰率の向上に貢献するとともに、地域の高齢者の健康づくりにかかわって

いきたいです」と力を込めます。



ミールラウンドの開始前は、実施の目的を共有する勉強会を行い、多職種の意識を統一した

# 【献立と環境の工夫】 趣向を凝らした献立と環境づくりで 食事をおいしく楽しく!

## 栄養check1!

### 脱水や低栄養を改善する献立づくり

高齢者は体内の水分量の減少と感覚機能の低下によって水分摂取量が低下し、脱水症状を引き起こすケースが多く問題視されています。オアシス21にとってもそれは例外ではありません。特に夏場の脱水症状に加えて食事摂取量が低下し、低栄養に陥る利用者が多く、点滴による栄養補給に頼っている状況でした。「それでは老健の役割を果たしていないと、当法人で注力する業務改善手法であるTQM(Total Quality Management)ののっとり、口から食べられるよう見直ししまし

た」と、看護師長の三上久美子さんは説明します。

そこで、栄養科で試みたのが独自に考案した水分ゼリーと粥ゼリーの提供です。「水分ゼリーの中身はスポーツドリンクで、ほど良く塩分があってツルツルと喉越しも良い。お粥も口腔内に残留して嚥下を阻む恐れがあったミキサー状からゼリー状へと変更しました。いづれもおいしく、利用者さんに大好評でした」と管理栄養士の長谷奈々子さん。水分ゼリーは当初は夏場のみの提供だったものが年中提供となり、水分、食事の摂取量ともに大幅に改善されました。

粥ゼリーについては、在宅復帰する利用者

家族に調理法を指導することもあると言います。以前あったのが、一時的な在宅復帰を望む看取り期にあった利用者のケース。管理栄養士が利用者の妻に粥ゼリーの調理法を含めた栄養指導を行い、約1カ月間、自宅で幸せなひとときを過ごした末、同施設に戻り最期を迎えたそうです。



粥ゼリーと水分ゼリー。水分ゼリーは“水を食べる”感覚で高齢者でも難なく摂取できる  
粥ゼリーの調理法の説明を受ける管理栄養士から当該事例の家族

## 栄養check2!

### 多職種の委員会で薬膳レシピを開発

一方、「食と栄養の向上委員会」が組織されていることも特徴の1つです。栄養科をはじめ施設長や看護師、介護福祉士など多職種で、献立の検討やレシピを考案しています。「数年前まではリスクのある食べ物は提供しない方針を掲げていたのですが、それでは利用者さんの食べたい気持ちに応えていないことに気づき、提供方法を検討するところから議論が始まりました」と宮前元樹部長は振り返りま

す。特に利用者から希望の高かったのは「パンを食べたい」という声。導入に向けて多職種で検討を重ね、現在では月2回パン献立の日を設けるようになりました。「ポタージュに付けて食べると絶品。大人気のメニューになりました」と三上さん。ミキサー食として考案したパン粥ゼリーも用意し、どの食形態の利用者でも楽しめる献立作りを心がけているとか。

旬素材を使った薬膳料理も人気です。薬膳の効能に着目し、レシピを考案。オリジナルのレシピ集も制作し、そこから長谷さんら管理栄養士が、毎月、季節に合ったものを選び、献

立を組み合わせて提供しています。

「今月の薬膳」というチラシにメニューと使用する食材の効能を記載し、各所に掲示しています。利用者さんも心待ちにしているようです(長谷さん)



『今月の薬膳』は各フロアに掲示。デイケア利用者にも人気を呼んでいる

## 栄養check3!

### 食事を楽しくする環境を工夫

同施設は、食事をおいしく味わってもらうには環境づくりも大切であると考えています。2020年に開催した「男子会」は、夕食後にプロ野球を観戦しながら、アルコールとともに刺身やちょっとしたつまみを提供し、大好評を呼んだ男性利用者限定の企画です。ケーキパイ

キングからなる「女子会」も利用者の笑顔を呼びました。有名店で活躍していた調理長の、切



ユニフォームを着て、ビールと野球観戦を楽しむ利用者

り方や盛り付けの技術、食材を美味しくするひと手間も、限られた予算でおいしさを最大限引き出す重要なポイントになっています。

「自分たちが食いしん坊だから“おいしい”という気持ちを最も大事にしています」と宮前さんが言うように、すでに食事のおいしい老健として地域に浸透しつつある同施設。今後もより一層、地域に栄養の大切さを発信していくつもりです。

## 社会医療法人慈恵会介護老人保健施設 介護医療院 北湯沢温泉いやしの郷

DATA | 入所定員128名/加算型  
TEL:0142-68-6331

左から看護介護部長の竹内由美子さん、濱さん、相馬さん、事務部長の泉謙之さん

## 医療法人喬成会 介護老人保健施設オアシス21

DATA | 入所定員100名、通所定員60名/超強化型  
TEL:0133-72-0021

左から三上さん、長谷さん、調理長の畑田一志さん、宮前さん



北海道内の会員施設をご紹介します

# ろうけん拝見

## 北海道済生会 小樽老人保健施設はまなす

地域にリハビリの必要性を広めたい!

### 居宅ケアマネに在宅復帰をPR

超強化型老健として、地域のニーズに応え続けているはまなす。在宅復帰の取り組みは、2018年から開始し、加算型、在宅強化型を経て、20年5月に超強化型老健となりました。支援相談課長の木田満春さんは当時について、「長期の受け入れが大半を占めていたため、地域からは“長く暮らせる施設”という認識でした。このイメージを払拭するべく、まずは小樽市内の居宅介護支援事業所を訪問し、在宅復帰について理解を図りました」と振り返ります。

活動する中で見えてきたのは、小樽市民の冬季入所、そして周辺地域の夏季入所のニーズでした。古平町や余市町、仁木町、積丹町の4町は、農業や水産業といった一次産業が盛んなエリア。夏から秋の繁忙期に、介護ができない家族からのニーズが高いことがわかったのです。



コロナ禍にあっても地域との関わりを大事にし、町内の清掃を行った

### 周辺地域のニーズを掘り起こす

そんな折、仁木町銀山に住む入所者の事例が在宅復帰推進のターニングポイントとなりました。「余市町はリハビリ施設が少なく、リハビリを行う風土も浸透していないことから、居宅介護支援事業所のケアマネジャーは在宅支援の限界を感じていたようです。そこで当施設と需要と供給が一致し、紹介を受けることになりました」と木田さんは説明します。リハビリを経て春に在宅復帰した後は余市町にある老健と連携し、デイケアの利用につながることができました。「地域によっては老健でも在宅復帰に取り組めていないところもあるため、互いに補いあって地域を守っていければ。当施設は“北後志の灯台”という覚悟で取り組みます」と木田さん。また、4月からは、系列病院のバックアップを受けながら独自に訪問リハビリも開始。リハビリ文化のない周辺地域にも出向き、少しずつニーズを掘り起こしているところだとか。こうした実績を積み重ねることが、地域の居宅介護支援事業所に訪問する際の説得力あるPRにもつながっています。



町内会と一緒にナデシコを植栽した

**編集担当**  
事務連こがわから質問です  
(グランドサン亀田)

**Q** リハビリが当たり前の地域をめざす上で重視することは何ですか?

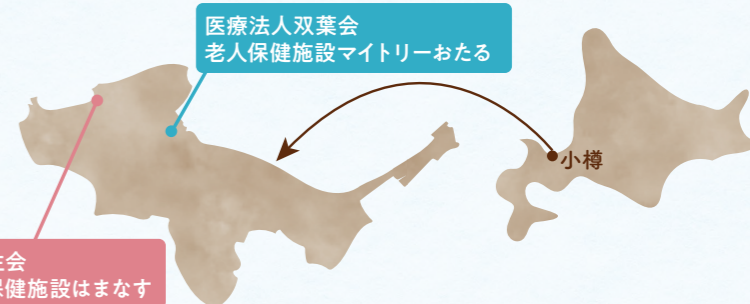
**A** 在宅復帰の際、ご家族に写真付き資料や動画でリハビリについて丁寧に説明しています。

北海道済生会 小樽老人保健施設はまなす 入所定員 100名 通所定員 40名 **超強化型** 小樽市塩谷2丁目17番25号 TEL 0134-28-2600

## 小樽市



北海道済生会  
小樽老人保健施設はまなす



医療法人双葉会  
老人保健施設マイトリーおたる

## 医療法人双葉会 老人保健施設マイトリーおたる

利用者に喜びと安心を提供する

### 自慢はデイケアの多彩なレク

JR南小樽駅から徒歩5分程度という立地、居室の窓からは小樽フェリーターミナルが望める景色の良さが自慢のマイトリーおたる。頻りに面会に訪れる家族も多く、当日の外泊や外食希望にも、いつでも柔軟に対応しています。

もう1つの自慢はデイケアで行っている多彩なレクリエーションです。現在は新型コロナウイルス感染症により中止していますが、それまでは月に1度のペースで開催。小樽市内の中でもいち早く導入したパワーリハビリとあわせて、好評を呼んでいます。人気のプログラムは、劇団四季で活躍していた講師による発声訓練をはじめ、小樽商大「翔楽舞」メンバーによるヨサコイ演舞、幼稚園児のお遊戯などです。「特に子どもたちの可愛らしい姿には利用者さんは大喜びで、もはや Teppan のプログラムです」と、支援相談員の三谷圭介さん。



恒例になっている発声訓練のレクリエーション



左から河西里見さん、北道正悟さん、小田原由美子さん、三谷さん、綱岸浩二さん、小嶋昌史さん、増田裕之さん

### 薬の自己管理を徹底サポート

開設から25年ほど経ちましたが、施設にとって大きな変化をもたらしたのが、2020年から開始した在宅復帰の取り組み。同年5月に加算型、21年1月に在宅強化型となり、現在は超強化型をめざしています。利用者の在宅復帰にあたり、注意を払っているのが服薬の自己管理です。看護師の指導のもと、服薬カレンダー等を用いながら、一人で管理できるよう少しずつ訓練を重ねていくといいます。「薬の飲み忘れが、急激な症状の悪化につながってしまうことがあります。独居はもちろん、ご家族と同居の方でも日中は一人になることもあるため、服薬管理が問題なくできるようになることは在宅復帰の大切な条件の1つとしてサポートしています」と三谷さんは説明します。



5月に発刊した『マイトリー通信』。初夏に向けて注意が必要な食中毒の情報を紹介した

### 地域に『マイトリー通信』を配布

三谷さんが課題に感じているのは、地域とのつながりです。「地域の高齢者のニーズに応えるにも、在宅復帰を推進するにも、やはり当施設の取組みをもっと地域に発信していきたいと考えています」。さしあたってはじめてのは、2カ月に1度、周辺住民に広報誌『マイトリー通信』を配布する取り組み。自宅でのリハビリのポイントや食中毒の知識といった健康に関わる情報発信を行っています。再び自由に活動できる日が戻ってきたあかつきには、地域住民向けの栄養相談やパワーリハビリの開放など、地域とのつながりを強化していく計画です。

**編集担当**  
事務連さかいから質問です  
(ゆとりろ)

**Q** 『マイトリー通信』の配布で地域の反応や変化はありましたか?

**A** コロナ収束後に、直接的な交流を通じて感想やニーズを聞いて、コミュニケーションを深めていきたいと思っています。

医療法人双葉会 老人保健施設マイトリーおたる 入所定員 100名 通所定員 40名 **在宅強化型** 小樽市奥沢1丁目2-2 TEL 0134-21-2555



## ソーシャルワーク業務とは、 道のないところに道をつくる仕事だ！

はじめまして。記念すべき第1回「支援相談員のリレーコラム」に投稿させて頂くことになりました、介護老人保健施設アートヒルズ兼リラコート愛全の松原です。最近では管理業務が多くなってきており、ミクロ実践に関わる機会が少なくなっていますが、われわれが行っているソーシャルワーク業務は「道のないところに道をつくる仕事」だと考えています。

つまり、ご利用者様、そして地域のニーズに施設が応えていけるよう橋渡しをし、ニーズに対し取り組む足掛かりを形成していくのが支援相談員の仕事です。ご利用者様に不利益が生じないよう、組織やスタッフ間の潤滑油の役割を果たしていくことが重要で、ソーシャルワーク業務を行ううえで何を重

支援相談員課長  
松原 俊輔

介護老人保健施設アートヒルズ  
兼リラコート愛全



点的に取り組み、介入していく必要があるのか判断する能力をわれわれは身につけておくことが大切だと感じています。そして、このコロナ禍により、「今まで」と物事の考え方も含めて業務内容もパラダイムシフトが起きています。そのような中でも、地域のニーズをキャッチし、ご利用者様に不利益がないよう、支援相談員は創造性・柔軟性を持ってソーシャルワーク実践をブレずに行っていければ良いと考えています。

NEXT ▶

…… 次回のコラム執筆者は、介護老人保健施設手稲あじゅの皆口さやかさんです。専門職能団体の活動でお世話になっており、明るく元気で聡明な方です！

### INFORMATION

## 第28回北海道老人保健施設大会 演題募集・大会参加のご案内

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止となった北海道老人保健施設大会ですが、21年度はオンデマンド方式によるWEB配信にて開催する運びとなりました。会員の皆さまのご参加をお待ちしています！

**日時** 2021年11月1日(月)正午～15日(月)正午 **オンデマンド方式による期間限定配信**

**大会テーマ** ピンチをチャンスに！  
～困難を乗り越え、新たな繋がりへ～

**基調講演** 2021介護報酬改定が示す老健の目指す姿  
～老健の複合機能は医療介護連携の要～  
東 憲太郎 氏(全国老人保健施設協会 会長)

**特別講演** 「在宅医からみた10年後・20年後のニッポン」  
佐々木 淳 氏(医療法人社団悠翔会 理事長)  
「コロナ禍の高齢者に笑いとフレイル予防を」  
清水 愛子 氏(一社)グッドネイバースカンパニー 代表理事

**分科会** 30演題

**参加費** 10,000円(一施設)  
※視聴者の人数、視聴回線数は問いません

**参加申込方法** 北海道老人保健施設協議会のホームページ  
(<http://www.doroken.jp/>)から参加申し込みのページに  
アクセスし、記載された指示にしたがって登録して下さい。

**申込切** 2021年9月10日(金)正午

### 演題募集のご案内

介護老人保健施設ならびに居宅サービス事業にかかわる提言や工夫、研究、症例報告などを募集しています。  
発表は、ZOOMを使用して発表動画を録画し、公開します。  
発表分類などの詳細は、大会専用WEBサイトをご参照ください。

申込切:2021年8月16日(月)正午

**大会専用WEBサイト** <http://www.doroken.jp/>

北海道老人保健施設協議会

検索

第28回北海道老人  
保健施設大会事務局

介護老人保健施設 アートライフ恵庭  
TEL 0123-37-1511・FAX 0123-37-1516  
〒061-1356 恵庭市西島松567-1



「ZOOMのインストール方法がわからない」  
「操作が不安……」という方でも、  
マニュアルをお渡しするほか、  
事務局が丁寧に説明しますから安心ですよ！